

秋 田 の 絵 馬 に つ い て

太 田 和 夫

まえがき

昭和52年1月より4ヶ月間にわたり、当館美術工芸部門において「秋田の絵馬」展を開催した。その前年5月ごろより、絵馬の調査を開始し、調査期間は約8ヶ月間である。

秋田の絵馬についての調査研究は現在までほとんど手がけられていなかったといえる。ただ、郷土史研究家の小絵馬の調査、美術史上貴重な資料となる絵馬の報告はあった。また、絵馬に対する関心は、鹿角市、能代市などでは文化財指定の対象にしており、一部では注目されていたのである。

全国的にみると、民俗学者柳田国男の研究をはじめ、美術史学者の絵画史的研究が数多く報告され、絵馬の持つ歴史、民俗、美術の各分野での資料的価値はますます重要性をおびてきている。その例は秋田県内でもみられる。秋田蘭画と呼ばれる近世洋風画派の泰斗小田野直武は生地角館町に絵馬を残している。それは角館町神明社の「花下美人図」と大威徳山の本尊「大威徳明王図」である。「花下美人図」は綿絵の臨模と思われ、直武18才の作である。このことによって、洋画法習得以前は浮世絵を模写した事が明らかとなる。また、仏画を模したと思われる「大威徳明王」は、17才の作であり画技はかなり熟したものとなっている。このように、絵馬は美術史上の研究にとって格好の資料となっている。

今回の調査は、展示を前提としたもので短期間であり、とにかく絵馬の所在調査を急いで行ったが、一応前述のような美術史上、とりわけ地方絵画史の資料となる絵馬に主眼をおいた。

また一方で、絵馬奉納の本来の性格は国家、地域社会、個人の切実な祈願を表わしたものであることから、専門画家の手による絵馬以外の、さまざまな絵馬も調査の対象とした。豊作祈願、家畜無病息災祈願、病氣回復祈願、武運長久祈願、等々の図柄や、大小、形も多様な絵馬を確認することができた。しかし各々の絵馬から派生する地域性、社会性、時代性や民間信仰、伝承などにふれるまではできなかった。

ここでは、1奉納年記からみた絵馬、2画人の描いた絵馬、3形式上特殊な絵馬の項目にわけ記述してみた。なお、絵馬一覧表と図版を付したので参照していただければ幸いである。また、調査した寺社は、県北は鹿角市から県南は大曲市周辺までの無作為に選んだもので、ごく一部であろうが次のとおりである。

鹿角市・芦名神社 月山神社 幸稲荷神社 八幡神社（花輪） 大日靈貴神社 神明社（八幡平）
比内町・神明社
二ツ井町・熊野神社
能代市・鈎瀉神社 八幡神社（上母体）
山本町・鬼首山神社
秋田市・羽黒神社 稲荷神社（飯島） 神明社（土崎） 三吉神社遙拝殿（寺内） 古四王神社 星野家白龍神社（寺内） 空巣沼神社 日吉八幡神社（八橋） 川尻総社（川尻） 八幡神社（千秋公園） 諏訪愛宕神社（保戸野） 太平山三吉神社 木曾石三吉神社 日吉神社（新屋） 豊平神社 神明社（豊岩） 八幡神社（豊岩） 熊野神社（豊岩） 志賀家靈石神社
大内町・八幡神社 稲荷神社
協和町・唐松神社 荒川神社 薬師神社
神岡町・八幡神社（神宮寺）
中仙町・八幡神社（栗沢） 菅原神社（鶯野）小沼神社 長野公民館
太田町・門脇家稲荷堂
角館町・神明社 眼地藏 妙徳寺 足王山（花園） 愛宕神社 神明社（白岩） 五社神社 西長野神社 熊野神社（西長野）
西木村・大国主神社
田沢湖町・荒澤神社 大蔵山神社 金峯神社 愛宕山神社（生保内） 御座石神社

以上、県内各地域の寺社関係者、教育委員会の御協力をいただき、ここに厚く感謝の意を表す。また調査には、当館美術工芸部門 皆川忠彦、藤原茂があたり、船絵馬については木崎和廣、文献については嶋田忠一、文字解説には塩谷順耳、写真撮影富樫泰時、の協力を得た。

1 奉納年記からみた絵馬

秋田県内最古の絵馬としては、今のところ能代市鉤鴻神社に奉懸されている「裸馬遊泳図」元亀3年(1572)である。安東愛季の筆と伝えられるが確証はない。墨線は狩野派系で、2頭の裸馬が泳ぐ様がうまくとらえられている。専門の絵師による作と思われる。図版①は赤外線撮影で鮮明にあらわれているが、本体は黒く汚れており400年以上の年月を感じさせる。なお画面の掻き傷より胡粉の白色がのぞくことから、板地に胡粉を塗り、その上から墨で描いたと考えられる。

次にあげられる絵馬は、貞享2年(1685)に奉納された「墨鷹」「白鷹」の2面である。これは能代市上母体八幡神社にあり、多賀谷左兵衛平隆経奉納と記銘されている。図版2でみられるように眼光のするどい黒白の鷹が堅実に描写されている。黒白一対の形式は、神馬図の黒白一対形式からきたものであろう。

元禄期にはいと芦名神社(鹿角市)の「神馬図」と大内町の八幡神社に奉納されている「松に鷹」の2面が残っている。前者は元禄乙亥年(元禄8、1695)、後者は元禄9(1696)のものである。

1700年代にはいと、正徳5年(1711)の「神馬図」(秋田市豊岩八幡神社)、明和3年(1766)の「花下美人図」(角館町神明社、小田野直武筆)など17面の絵馬が確認された。

さらに1800年代から徳川幕府崩壊までの間には絵馬の数はさらにふえ、現在残されている絵馬の約30%弱をしめている。就中1840年以降の弘化、嘉永、安政といった年号が多くみられる。幕末、維新前の混乱した社会状況と関連があるのだろうか。

明治にはいとその数はさらに増し、年号が記載されたものの内約半数をしめている。図柄は以前よりも多様なものがみられ、拝み絵馬(図版32~37)、魚、人体の部分図(図版42、43)、わらじ(図版40)など個人的な祈願絵馬が豊富となる。藩政期における個人的な絵馬奉納は、農耕用家畜の無病息災が主なようである。全国的視野からみると、室町時代以降から図柄の多様化が始まったとされているが、秋田の地においてはそれよりもかなり遅れて普及した事になる。数量的に前述の小絵馬類が少ないのは、推測ではあるが、あまり大事にされず、焼かれたり捨てられたりしたためとも考えられる。

大正、昭和の時代になると、その数は減少の一途をたどり、絵馬奉納の習俗はすたれつつある。そんな中において、角館町白岩の足王山と称する小祠には今も「腰下の図」「わらじ」を描いた小絵馬が奉納されている。県内唯一ではなかろうか。

以上のように年代順に絵馬について記したが、これだけの調査では全県的な絵馬考察は困難であるが、その特色をあげるならば、幕末、明治初期の絵馬が多いという事であろう。ただその時代の絵馬各々についてもっと詳細に調査しなければ明確な原因を述べることはできない。今は一口にいえば、混乱した社会動勢に影響されているということだけにとどまる。

調査した絵馬の内、年号が判明するものは182面で、次のような年代別による数字を出してみた。ただし、県内1部の調査段階での結果である事をおことわりしておく。

1603年~1699年(江戸時代)	3.8(%)
1700年~1799年(//)	9.3
1800年~1867年(//)	27.5
1868年~1889年(明治時代)	20.3
1990年~1911年(//)	26.9
1912年~1926年(大正時代)	5.0
1927年~1945年(昭和時代)	4.5
1946年~1976年(//)	2.7

2 画人の描いた絵馬

絵馬の製作にあたっては、専門の画家が大いに腕をふるった。彼らの筆による絵馬は、額縁が付けられた立派な絵画作品となっており、法量は大きなものが多い。奉納者は武士、講中、神社の氏子、商人、グループ（有志）が大半である。図柄は神馬図をはじめ、虎、鶏などの動物、「松鶴」「高砂」などのおめでたいもの、「六歌仙」「百人一首」などの歌仙絵、「美人」「役者」などの風俗図、「楠公像」「合戦」「退治図」などの武者絵と多様である。また、画家は絵馬の背面か画面に落款および印章を記している。これなどは絵馬奉納の祈願とは別に、画家自身の自己表示であり、画家の社会的身分を示している。彼らの絵馬は神社拝殿の正面に懸けられている場合が多く、神社の装飾として重要な役割を果しているかのように見える。

現在においては、美術展や書籍で絵画作品を発表できるし、また我々も自由にそれらを目にすることができ。しかし、江戸時代にはそのような機会はほとんどなく、とりわけこの秋田の地では皆無に近かったと思われる。したがって当時の画人は神社の絵馬制作に力をいれ、軸物や障屏画にするのと同様に筆を運んだに違いない。角館町の神明社、秋田市の日吉八幡神社、鹿角市の月山神社などは、さながら絵の展覧会場を思わせる。明治初期になっても、画家は依然として絵馬制作を依頼され、今日でも我々は数多くそれらを見ることができる。これらの絵馬について県北から順を追って述べることにする。

鹿角市八幡平の神明社には「神馬」と「合戦絵」が奉懸されている。前者は勝昌、後者は竹昌という画人によって描かれたものである。筆力はやや稚拙な点が見られるが、地方画家として生活していたものであろう。この両者のことはまったくわからず、今後の調査を要する。

同じく鹿角市の大日靈貴神社には、平福穂庵筆の武者絵が2面ある。この神社は正月に有名な舞楽祭が行われる神社であるが、惜しくも昭和29年に焼けおちている。それ以前には、南部藩お抱え絵師川口月嶺筆の「牛之図」があったという。そのあとにこの穂庵の武者絵が地元の有志によって奉納された。ただ、堂内の高所にあるため寸法、奉納者を知る事はできない。推測ではあるが、穂庵は明治23年に他界しており、地元の人がこの武者絵を屏風か襖絵として所有していて、これを新たに額にして奉納したのではないだろうか。

鹿角市花輪八幡神社には川口月嶺が描いた額がある。画面が黒くやけて図柄は判明しないが、川有度謹写と款記されており、背面には奉納嘉永壬子歳 武運長久 子孫繁栄祈 五月吉辰 願主奈良庄重郎 正理 と記されている。この嘉永5年の頃は外国の船がさかんに日本国をおびやかし、また、国内では政情の混乱した時期であり、その世情を反映したものであろう。武運長久、子孫繁栄の祈願文からして図柄は武者絵と考えられる。

月嶺の描いた絵馬は同じ花輪の幸福荷神社にも2架ある。馬と虎の図である。いずれも2m四方の大額で墨画である。馬之図は刷毛で一気に馬形を描いた彼独自のスタイルで描かれ、応吉田氏需写 川有度 真象と款記されている。吉田氏については調査不足であるが、宮司奈良亮一郎氏によれば、花輪の豪商であったといわれる。もう一方の虎之図は、虎が勇猛にかまえている姿を丹念に墨で描いたもので、その大画面とあいまって迫力がある。月嶺水墨の傑作の一つである。軸装や屏風にはみられない大きさを表現している。

鹿角市毛馬内から約4km西方に位置する月山神社には、興味深い絵馬が数多く奉納されている。その一つは、百人一首（図版22）の絵馬である。縦96.5cm、横187cmの桂材に5首の歌と5人の歌人を描いた額が20面、堂内にはりめぐらされている。その1面の裏に「于時安政三歳龍集丙辰卯月吉日 内藤五七郎 若松屋忠兵衛 似内屋嘉右衛門 濱田村傳右衛門 諸願成就皆令満足と墨書されている。安政三年にこの堂宇が再建されており、その際に奉懸されたものだろう。堂内四方の板壁に20面がちょうどおさまっており、その景観はすばらしいものである。高い位置に懸けられているため20面全部の裏面を調査できず残念であったが、この中のどれかに筆者名が記されているはずである。人物の描き方、文体は一様にかかっているが、おそらくこれだけの数であるから数人の作業とも思われる。南部藩内のいずれかの画家によるものであろう。またここには、「美人図」と「役者絵」がある。いずれも板地に直接描かれているが、何の記載もなく筆者名も奉納者も判明できない。筆致は浮世絵版画の模写と思われ、美人図（図版24）は3人の芸妓があでやかに立っている姿と背景の家屋と室内がこまかに描出されている。職業絵師によるものである。役者絵の方は、「白浪五人衆」で各々の衣装の紋様や顔がよく描かれており、上記の美人図と同じ筆になるものであろう。南部藩にはこのように風俗絵を得意とした画家がいたのであろうか。県内では唯一の浮世絵絵馬であろう。この他ここでは、吹き抜ける天上の梁に絵馬が多くかけられ

ている。あまりの高所にかけているため調査ができなかった。もう一度地元のかたがたと協力して調査したいものである。

鹿角市にはもう一カ所絵馬の宝庫がある。毛馬内から北東へ約10kmに位置する芦名神社である。ここはもともと芦名沢観音堂と呼ばれ創建が貞観3年(861)といわれている。江戸時代にはいると南部領であったこの地は藩の馬産奨励とともに牛馬の飼育が盛んになり、牛馬の無病息災を願う絵馬が数多く奉納されてきた。大小さまざまな板に馬や牛が描かれ、現在残されている絵馬の数は百数十枚に及ぶとされている(図版29)。天上裏にしまいこまれた絵馬板の数十枚しか調査できなかったのだが、それらの全てが絵馬師によって粗末な板ぎれに描かれたもので、その型にはまった牛馬の稚拙な姿体が、かえって庶民の願いをかなえるにふさわしい絵馬らしい絵馬に思われた。また、これらとは別に職業絵師が描いた大絵馬が堂内にはりめぐらされている。武者絵、人物図宝剣の図とあるが、作者の款記があるものとしては「松鶴図」(図版23)だけであった。この絵馬はおもしろい事にはぼ同じものが2面懸けられている。ひとつは林流筆とある文化4年奉納のもので、裏面には「桜庭晴之進綱豊掛之 時役人岩船瀬左衛門 浅沼郷左衛門 上関里右衛門 川熊儀右衛門」とある。もう一つは仙流筆文政13年奉納の絵馬で、裏に「内藤太郎平貞宜 和井内左学貞澄 伊藤喜三右衛門慶禮 岩瀬伊藏貞秀 大里伊太郎 大里善松」と墨書されている。林流、仙流がどのような画人であったか判明しないが、南部領内の専門絵師であり、両名は師弟の間柄と思われる。筆致は狩野派流の型にはまったものだが、師弟が時を経て同じ図柄の絵馬を奉納した例は他にみられない。材は桐で、体裁は屋根型で縁のつぎ目が金具で固定されたぜいたくな絵馬となっている。

能代市上母体八幡神社には地方画人豊島都山(1838~1919)が描いた「川中島の戦い」「日本武尊」がある。前者は明治29年奉納で、縦94×横195.5cmの大額で破損しているが、武者絵を得意とし、また戊辰の役に奮戦した都山らしい絵である。後者は明治43年の奉納で剣を持った日本武尊を描いている。明治29年は日清戦争終結の翌年、明治43年は大逆事件、韓国併合の年であるが、これらと関連があるのだろうか。推測の域を出ないが当時の状況を反映した好戦的な絵馬といえよう。

秋田市内の神社には地元の画人による絵馬が多くみられる。飯島稲荷神社には荻津勝章が描いた「曳馬図」(図版17)がある。彼の家は代々剣術にすぐれかつ画家でもあった。祖父勝孝は「秋田風俗絵巻」(秋田県立博物館蔵 県指定有形文化財)を残している。そんな環境で育った白銀斎勝章は書画を良くし、絵馬にも筆をふるった。飯島稲荷の絵馬は勝章71才の作であり、円熟した描写である。暴れる馬とそれをおさえる人物が太い墨線で隈取りされ、力強い画面になっている。

八橋の日吉八幡神社には縦250×横350cmほどの超大絵馬が9面奉懸されている。本荘藩の絵師牧野永昌の「源平合戦図」をはじめ、渡辺洞昌、五十嵐嵐兒、津村洞達、津村洞養、西宮半城らによるものである。詳細は絵馬一覧表を参照していただきたい。千秋公園の八幡神社にも荻津勝孝の他、根田秀儒、藤如水、渡辺益恒といった名の額があった。秋田市豊岩方面の神社には小絵馬から大絵馬にいたるまでおもしろいものが多い。そのうちで画家の筆によるものなかに豊岩神社の「仁田四郎猪退治図」(図版8)竹村篁邨筆がある。明治37年日露戦争時の奉納である。武運長久を願ったものであろう。そのほか、志賀三郎氏屋敷内にある小祠には鈴木梅山(本荘藩の絵師)の神馬図(図版18)がみられた。またここには、小絵馬が数多く奉納されており、画工保坂伊三郎と絵馬師の名が記されている絵馬があった。馬喰が馬をひきつれた図(図版30)もあり、この小祠は馬産に御利益があるらしい。

新屋の日吉神社には倉田松濤が描いた「恵比須」(図版13)がある。漁業組合による会社記念の際奉納されたものである。松濤独自ののびやかで、しかも計算された線をみせてくれる作品である。川尻の総社には草鴉興草が描いた「牡丹」の絵馬がある。これには安藤和風の俳句が書かれてある。

仙北地方にはいると、画家の描いた絵馬が数多くみられる。特に幕末から明治初期にかけて角館地方の画人の活躍が目につく。

仙北郡協和町唐松神社には多くの絵馬が奉納されている。子授り、子育ての御利益があるためか、女性の参詣が多いようだし、芸者風の女性たちが参詣する図柄のものがあったりした。また拜殿の欄間には所狭しと絵馬が幾重にも重ねて懸けられている。このうち、表面に出ているものしか調査しなかったが、それでも画人の描いた絵馬が確認された。「六歌仙」(竹村文海筆)「駆馬」(平福穂庵筆)「浦島太郎」(荻津白銀斎筆)の3面で

ある。「六歌仙」(図版5)は桐材に金泥を使い彩色も豊かな図である。裏には「嘉永己酉年 林鐘吉祥 諸願成就 願主角館女講中」とある。歌仙絵の奉納は、室町時代あたりから歌道の上達を願い流行したらしい。県内でみられるのは3カ所ぐらいだが、ただし俳句や歌だけを書いた額は多くみられる。「駆馬」(図版19)は平福穂庵の作である。穂庵はたくさんの絵馬を手がけているが、これは慶応元年まだ号文池時代のものである。競争馬の動きが良くでており、また風俗的にも興味深い絵である。

同町荒川神社には「山姥金時」(図版26)が残されていた。筆者名はわからないが、絵師の手になるものであろう。この図柄は珍しく、県内唯一のものである。健やかな金太郎のようにと祈願したのであろう。

角館町にくると画人の絵馬が豊富にみられる。その筆頭は角館神明社であろう。古くは前項で述べた直武の「花下美人図」から文浪(穂庵の父)、穂庵、辻九阜、西宮礼和、小野崎大凌と江戸時代から明治までの角館画人を網羅している。このうち平福文浪の「草子洗」が群を抜いている。前述の「六歌仙」と似た筆致で、師文海との繋がりがよくわかる。当時の角館がいかに文芸の盛んであった所であるかが絵馬にもあきらかにあらわれているといえよう。

角館町白岩愛宕神社にも穂庵が描いた絵馬が2面ある。ひとつは「高砂」(図版7)で安政5年穂庵14才の作である。14才にしては慣れた筆使いであり、その評判は町を離れた白岩方面にまで聞いていたのであろう。村の者の奉納である。もう1面は「神功皇后と武内宿禰」(図版6)で平順画と款記にある明治10年奉納の大絵馬である。量感のある人物が速い筆使いで描かれている。明治10年はこの神社の位置する村が他の2村と合併している。また、九州では西南の役が起きた年でもある。これらと関連のある奉納なのかはわからないが、村の若者たちが奉納した記念的なものであろう。

また、愛宕神社から4km程北東にある五社神社には、同じく穂庵の「楠正成」(図版4)が奉懸されている。正成が天皇に拝しているところらしいが、引きしまった表情、ていねいに描かれている装束、人物の配置など武者絵馬の傑作であろう。裏面には「明治元戊辰賊徒侵入官軍吾輩以此社為本營八月念九日討之仆賊将」とあり、当社に陣取った官軍と幕府側の激しい戦いのあとを偲ぶせる。歴史上興味ある絵馬ともなっている。その他ここには穂庵の弟子辻九阜の「後三年の合戦絵巻」に題材をとった武者絵がかげられている。

3 形式上特殊な絵馬

絵馬奉納の起源変遷を、生馬献上にはじまり、木彫馬形、板立馬、絵馬という順に変ってきたとする説が正しいとすれば筆で描く以外の手法で作られた絵馬を特殊とすることは語弊があるかもしれないが、ここでは現在一般に見られる絵を描いた形式の絵馬のなかにあつて、異質な材料を使っている絵馬を仮に特殊な絵馬と呼んでみることにした。絵馬は板地に墨や顔料で描かれたものが多いが、その他に変わったものとしては、漆で描いたもの、浮彫をしたもの、貨幣を使用したもの、金属板を使用したものなどがあげられる。

漆絵馬は県内に2面をみるにすぎない。鹿角市芦名神社の「騎馬図」(図版47)と横手市八幡神社の「宝船」である。両神社とも漆芸の盛んなところに近い。

浮彫絵馬としては、太平山三吉神社「天狗面」(図版50)と、秋田市三吉神社遙拝殿「足袋」(図版48)がある。前者は仙北郡長野村(現中仙町)の有士が奉納している。祈願の意味はわからない。後者は足袋屋の奉納である。おそらく商売繁盛の祈願であろう。

貨幣を使用した絵馬は、秋田市豊岩神明社の「鳥居」(図版49)で寛永通宝を使って鳥居を型どり、板にはりつけて奉納している。

金属を利用したものとしては、「かま」(図版51)「宝剣」(芦名神社、豊岩八幡神社)などがある。

これらの形式は奉納者個人の創意であるのか、絵よりも直接的な表現でより大きな御利益をねらったものなのか、また神社にはよく鉄で型どった鳥居、足の模型、わらびなどが無造作に懸けられているのを見かけるが、それをただ板に貼り付けるようになっただけなのか、その経緯は判明しがたい。ただ、今回の調査でこれらの絵馬全部が近代以降の奉納であったことから比較的新しい形式と思われる。

最後に変わった絵馬として、田沢湖町金峯神社の「千疋絵馬」(図版27)中仙町小沼神社の「馬(漢字を書き連ねたもの)」(図版28)があることをつけ加えておく。また、参考までに県内では数少ない算額の1面を図版46で示した。

あとがき

冒頭で述べたように、この調査は、目前に展示をひかえたもので美術的なものの見方が強く、絵馬奉納の背景にあるさまざまな要素まで立ち入ることはできなかった。例えば、秋田市保戸野諏訪愛宕神社の「かま」についても、単なる絵ときを、祭られている神体とのかかわりで瘡やはれものにきくという様にかたづけるのは簡単だが、もっと他にその地域特有の民間信仰があるはずである。角館町の眼地藏堂、腰下やわらじの小絵馬がある小祠も同様である。

また豊作物の豊凶と絵馬との関連、馬産地との関連などの課題がでてくる。今日の絵馬研究が岩井宏実氏の唱える「絵馬を民族文化の歴史的発展のなかに位置づけていく研究」であるならば、美術的な見方、民俗学の見方歴史的な見方と広い視野で調査していく必要があることを感じた。

参考文献

- 岩手県史第5巻近世編2 岩手県 昭和38
 増補絵馬巡礼と俗信の研究 召田大定著 慶文堂 昭和51
 絵馬 岩井宏実著 法政大学出版局 昭和42
 日本の絵馬 岩井宏実・神山登共著 河原書店 昭和45
 秋田の先覚1 秋田広報協会 昭和52
 秋田蘭画 太田桃介 武埴林太郎 成瀬不二雄共著 三一書房 昭和50
 東北の絵馬 仙台市博物館 昭和52
 角館誌第4巻 角館誌刊行会 昭和44
 熊野神社算額 北条昭夫 私家版 昭和51
 日本民俗図誌第2回祭祀編 本山桂山著 東京堂 昭和17
 秋田県史文芸数学編 秋田県 昭和36

絵馬のリスト

神社名	画題	寸法cm縦×横	画作者名・記載事項()内は筆者の記 裏…絵馬の裏面
◇鹿角市◇			
神明社	関取		
(八幡平)	西南戦争		明治十年
	馬上の義家		
	蛇		
	馬		勝昌筆
	義元合戦		竹昌筆
	礼拝		為眼病奉納之 阿部允之 稻二千本
	鷹		
大日靈貴神社	武者		平福穂庵筆
八幡神社	不詳(人物図)	68.5×102.5	川口月嶺筆 川有度謹写 (裏)奉納嘉永壬子歳 武運長久 子孫繁栄祈 五月吉辰 願主奈良庄重郎 正理
(花輪)			
	巖島神社	82×100	文政
	蒙古襲来	75×99	
	弁慶牛若	70×105	石川仙流筆 武藤氏敬白 享和四年甲子春三月吉日 諸願成就
	富士	65×103	文政六年 成就満足 関氏十二月吉日
幸稻荷神社	馬	140×170	川口月嶺筆 應吉田氏需写 川有度 真象
(花輪)	虎	134×224	川口月嶺筆

秋田の絵馬について

神社名	画題	寸法cm縦×横	画作者名・記載事項()内は筆者の記 裏…絵馬の裏面
月山神社 (毛馬内)	百人一首	96.5×187	(歌人5人と歌5首がかかれた板が20枚) (裏) 于時安政三歳 龍集丙辰卯月吉日 内藤五七郎 若松屋忠兵衛 似内屋嘉右衛 門 濱田村傳右衛門 諸願成就皆令満足 (この記銘は清原深養 父 文屋朝康 右近 参議等 平兼盛の額に書かれたもの)
	閑取	67×42	大湯村 廣島吉太郎納之 (裏) 明治三十年旧六月十三日
	布袋	51×83	諸願成就皆令満足 文久元年
	白浪五人衆	46×136	弘化四年
	美人	70×128	
	神馬		
	唐人		
	うさぎ		
	牛と少年		熊谷月郷
	那須与一		弘化三年
芦名神社 (毛馬内)	鷹		
	松鶴	98×122	林流筆 文化四丁卯歳四月十七日(裏) 桜庭晴之進綱豊掛之 時役人岩船瀬左衛門 浅沼郷左衛門 上関里右衛門 川熊儀右 衛門
	松鶴	113×101	仙流筆 文政十三庚寅歳四月(裏) 内藤太郎平貞宜 和井内佐 学貞澄 伊藤喜三右衛門慶禮 岩瀬伊藏貞秀 大里伊太郎 大 里善松
	劍	200×54	(2額 板に鉄製の劍をはりつけたもの)
	仁王	220×106	
	那須与一	200×200	明治十七年
	武者	64×120	安政元年
	神馬	150×115	嘉永二年
	神馬	100×115	嘉永二年
	神馬	83.5×98	元禄乙亥年九月十九日長澤新之丞百拜(裏) 諸願成就皆令満足 奉納宝前絵馬二疋
	馬(7頭)	30×63.5	奉納 別所村 佐藤惣九郎
	馬(5頭)	27.5×49.5	奉納昭和十五年旧五月十七日 願主成田惣八
	馬(3頭)	37×69.5	願主田原助五郎 昭和五年五月五日(裏) 諸願成就
	馬(4頭)	46×94	細越ノ又助(裏) 慶應四歳七月十日諸願成就如意満足
	馬(33頭)	30×64	奉納 鹿角長井田村字荒町畠山長助(以上のほか芦名神社には 約200枚をこす絵馬が奉納れさている)
◇比内町◇			
神明社	武者		藤盛江岸 弘化四年
◇二ツ井町◇			
熊野神社	曳馬		享保元年山本郡種村 茂呂忠吉 丙申四月十五日
◇能代市◇			
鉤潟神社	裸馬遊泳	40×73.5	伝安東愛季奉懸馬形二疋于時元亀三年壬申八月鬼宿信心旦那
八幡神社	黒鷹	95×49	貞享二年十二月吉日多賀谷左兵衛平隆経奉懸鷹之絵敬白
(上母体)	白鷹	95×49	貞享二年五月廿五日多賀谷左兵衛平隆経奉懸鷹之絵敬白
	川中島の戦い	94×195.5	後素園豊嶋光保護画 奉納明治二九年四月拾五日小杉山文藏

太田和夫

神社名	画題	寸法cm縦×横	画作者名・記載事項()内は筆者の記 裏…絵馬の裏面
	日本武尊	78×108	明治四十三年庚戌三月吉日 小杉山幸吉敬拜 霧山人豊嶋後素謹画
	鷹	90×60	奉懸若弟鷹一居 菅原及右衛門 安周 貞享三年正月吉日
◇山本町◇			
鬼首山神社	曳馬	44.5×76	
	曳馬	62×119	文政十三年寅十一月吉日 願主板倉吉十郎
◇秋田市◇			
羽黒神社	俳額	79×195	元文二丁己天三月
(下新城)	俳額	51×400	延享三丙寅歳六月吉日 願主不染斎荷亭
稲荷神社			
(飯島)	曳馬	60×91	荻津勝章筆 七十有一齡鎌翁荻津源勝章 明治廿四年八月 願主伊勢氏
	向い狐	34.5×52	奉納明治四十年旧正月吉日 願主土崎湊相染町竹谷清之助敬白
	参拝(男)	39.5×51.5	奉納明治卅五年旧五月十日応需芳晁画 願主 水戸瀬徳治
	天狗	80×45	
神明社	中国武人	200×300	明治十九年季七月六祭日
(土崎)	馬上之武人	200×280	寛政七乙卯六月吉日
	唐美人	200×300	寄進 船手 仙北 湊町
	不明		津村洞養筆 明治十九年
三吉神社遙拝殿	足袋	46×70	(木で型どったもの) 大正三年
(寺内)	押絵	200×290	
	高砂	100×200	明治
	土崎消防出初式	200×400	
	船	35×45	明治二十七年飯島村笹島部落筒井
	富士に鶴	30×40	
	海辺の風景		明治十三年庚辰十月
	日の出に鷹	150×220	明治
田村神社	武者	120×180	
(古四王神社境内)			
白龍神社			
(寺内星野守	蛇	19×27.5	奉納(裏) 明治四拾二年
之助宅氏神)	〃	13.5×20	明治元年正月 南秋田郡清水町 田口さだ
	〃	14×22	奉納明治十一年九月廿五日当邑星野氏敬白
	〃	14×19	奉納 願主南秋田郡寺内村 伊藤エツ敬 五月廿六日
	亀	24.5×33	奉納 元治元年子九月吉日 宮澤氏敬白
	〃	13.5×20	奉納 明治十一年四月七日 米沢三之助
	違い大根		奉納 白土直四郎 母(裏) 明治九年六月六日
日吉八幡神社	源平合戦	250×380	牧野永昌筆 天明三癸卯歳初冬下旬敬白 遊心斎
(八橋)	那須与一	250×380	渡辺洞昌筆 寛政四歳八月吉祥日 渡辺□□写六十二歳
	繫馬	200×300	五十嵐嵐児筆寛政四壬子年九月吉日三町小路 嵐周阜
	宮中	250×380	萬延元年庚申八月日 文嶺筆
	熊谷と敦盛	250×380	津村洞達筆 文化十四丁丑四月吉日 卯月斎
	菊	120×350	西宮半城筆 明治三十年半城画並書
	桜	120×350	

秋田の絵馬について

神社名	画題	寸法cm縦×横	画作者名・記載事項()内は筆者の記 裏…絵馬の裏面
	白富士	120×380	津村洞養筆 明治十三年 洞養重悦
	天孫降臨	120×380	〃 明治十六年 〃
川尻総社 (川尻)	牡丹	100×190	草薨興宗筆 昭和七年安藤和風翁寿碑建立額句録
八幡神社 (千秋公園)	不明	150×400	大正三年九月卅十日 藤如水筆(小野崎如水か)
	松に鳩	80×110	明治十七年五月南秋田郡相川村伊藤東三郎
	中国人物	150×200	渡辺益恒筆 明治十四年九月六日
	竜	120×250	文政六年
	武者	150×300	荻津勝章筆 明治十七年四月三日
	鯉	100×230	根田秀僞
稲荷神社 (千秋公園)	不明	35×90	佐竹義敦公筆(扇面)
諏訪愛宕神社 (保戸野)	神馬	43.5×70	小川歛斎筆 六十八歳歛斎
	かま	26.5×37	明治三十年四月吉日 北秋田郡十二庄町茂木氏
	かま		明治廿八年一月十九日 安東ハナ敬白
	かま(鉄製)	30.5×17	奉納 願主鈴木大助
	かま	30×37	奉納 明治三十年秋田市保戸野表諏訪町上丁 船木金市郎敬白 旧四月廿六日
	鳥居	25×33	奉納大正三年五月二十日 願主高島リツ
	〃(鉄製)	31.5×24	奉納 昭和七年 秋田市川尻町 遠藤氏旧五月四日
	礼拝(男)	24×27	奉納三一年戊戌四月 秋田市保戸野新町阿部氏
	礼拝(女)	22×41.5	奉納明治三十年十月十日 榎山 渡辺キヨ
	にわとり	21×33.5	奉納明治四十四年八月一日願主佐々木庫之助
	にわとり	25×33	奉納 秩父よし
	こい	20×33	奉納 明治二十四年九月廿五日川又氏
	こい	36×46	奉納 明治十六年三月十三日 嵯峨氏敬白
	六歌仙	50×60	
太平山三吉神社 (赤沼)	天狗面 (彫刻)	90×67	(裏)御宝前 仙北郡長野村 秋山多郎八 平瀬多右衛門 秋山 半左衛門 大野忠右衛門 鈴木平右衛門 小原伝左衛門 鈴木 松右衛門 高階新兵衛 山田文四郎 鈴木□□□ 木村庄右衛 門 庄兵衛 鈴木松太郎 鈴木興一郎 三浦□□治 三浦又右 衛門 三浦善三郎 佐藤三右衛門 小原多郎兵衛 鈴木吉右衛 門 小田嶋善助 大神成村高橋興四郎 発願主鈴木文九郎 大 信田徳治 福嶋□□□ 鈴木惣四郎 秋山吉□ 金野久蔵 畑 □□□ 慶應二丙寅歳八月吉日
	寿老人	72.5×97	于時明治七戊年九月吉日 住友麗一同兵助 洞養藤原重悦
	神功皇后と竹内 宿弥	60×107	小室恰々斎筆 明治二年六月古内氏敬白 恰々斎秀俊(裏)武 運長久
	唐獅子牡丹	60×120	那珂淇水筆 慶應三丁卯仲秋□□ 謹写
木曾石三吉神社 (太平)	牛若と天狗 武者	150×200 127×286	津村洞養筆 明治十一年初春 洞養重悦 荻津勝章筆 白銀斎荻津勝章図之 明治応需十五年
日吉神社 (新屋)	十二支 唐人物 恵比須	85×300 75×100 114×69	小川歛斎筆 明治十一歳戊寅 (裏) 明治四拾四年参月拾九日 合社記念 漁師組合 高嶋長

太田和夫

神社名	画題	寸法cm縦×横	画作者名・記載事項()内は筆者の記 裏…絵馬の裏面
			之助 高橋権之助 大塚勇助 鹿渡谷市五郎 小松豊治 渡邊三之助 佐々木仁助 佐藤才治 佐藤善九郎 横山作松 横山五七郎
豊平神社 (豊岩)	仁田四郎猪退治 那須与一 武者絵 蛇	89×117 100×280 85×110 60×80	竹村篁郵筆 明治甲辰 明治卅七年 明治四十二年 願主藤原銀花
神明社 (豊岩)	龍神 船 船 竜神(押絵) 馬 礼拝(男) 礼拝(男) 武士 鳥居	60×80 40×50 70×80 50×75 36×46 37×48 50×65 40×50	明治廿十年旧七月吉日 海上安全船中無難 願主堀川 明治卅五年六月吉日 願主佐藤辰藏 嘉永戊正月十七日 石田坂村弁之助 梅松 奉納秋田県由利郡本荘町(裏) 明治卅七年十一月三幡惣一郎 三幡勘次郎 奉納 明治二拾三年旧九月吉日 秋田市八日町 石山政治 石山仁三郎 忠幸 明治卅四年旧十月廿二日 当村佐藤長之助(寛永通宝で形づくったもの) 奉納明治四拾五年壬子七月吉日 佐藤運四郎
八幡神社 (豊岩)	牛若丸 繫馬 神馬 礼拝(女) 鏡壇 宝剣(鉄製)	76×118 53×72.5 58×75 39×54.5 53.5×27 42×29	津村洞養筆 明治十三年 津村洞養筆 奉納願主池田惣助敬白 洞養重悦(裏) 為志願成就明治二年巳九月七日納之 正徳五 五十嵐□□ 八月□□諸願成就皆令満足 奉納 大年神 三十五歳女鈴木フミ敬白 奉納 御宝前 當村行道者茲眼坊(裏) 寛政元年酉秋八幡堂立替之節奉納之 奉納宮嶋姓 大正拾年八月拾五日記念 新潟県刈羽郡本町八丁目元比角村 宮嶋貞平
熊野神社 (豊岩)	船 神馬	32×49	奉納 神徳丸 嘉永七年三月吉日鈴木□内三太 神納明治九歳敬白 画工飯島村保坂伊三郎丙子拾二月吉日 願主堀川村鎌田□兵衛(裏) 明治九年十二月吉謹而神前江奉納禰者ハ堀川村之□兵衛伏之内安良諸病消滅馬寿延満望願来成
志賀家霊石神社 (豊岩)	繫馬 野馬 野馬 野馬 繫馬 繫馬 馬喰と馬 馬喰と馬 日の出に蛇 猫	36.5×60 22×30 22×30 46×67.5 51×40 45×64 38×124.5 40×100 23×40 30×27	天保五歳甲午七月吉 前里村右関清八 奉納文久三癸亥年八月吉日研斎 山本郡富□新田村泉□□ 奉納文久三年癸亥八月吉日折田氏敬白 研斎 寛政五年 羽州亀田領下濱扱□□村 今野治三郎六月五日 鈴木梅山筆 一雲斎梅山 鈴木梅山筆 仁賀保芹田村渡邊喜吉 一雲斎梅山(裏) 明治四年辛未十一月吉日敬白 慶応二丙寅五月吉日願主河辺郡仁井田村木村新左衛門 敬白 元治元歳甲子九月河辺郡仁井田村敬白 奉納 百三段新屋村 渡邊 安政七年 奉納 御宝前 庚申二月吉日

秋田の絵馬について

神社名	画題	寸法cm縦×横	画作者名・記載事項（）内は筆者の記 裏…絵馬の裏面
	歓喜団子	18×29	諸願成就 皆令満足 保戸野中町川井氏
◇大内町◇			
八幡神社	松に鷹	95×126	元禄九年丙子八月
	繫馬	65×90	昌慶筆
稲荷神社	鶏		
◇協和町◇			
唐松神社	六歌仙	89×181	竹村文海筆（裏）嘉永己酉年 林鐘吉祥 諸願成就奉納謹白 願主 角館女講中
	駆馬	58×89	平福德庵筆慶応乙丑初秋文池写（裏）慶応元年乙丑九月吉日 角館針生氏
	神功皇后と竹内宿彌	96×163	明治十二年
	浦島太郎	54×70	荻津勝章筆 奉納明治十年四月秋田郡瀧川村目黒市助 白銀斎 荻津源勝章筆
	虎退治	90×120	天保九年
	野馬		館岡栗山筆 昭和三十一年 能代市館岡啓一
荒川神社	山姥金時	74×100	安政六年末十□月敬白
	鹿	50×78	
	武者	47×61	北谷筆
◇神岡町◇			
八幡神社 （神宮寺）	白鳩に牡丹	80×130	文政十一年戊子十月吉日施主久保田酒田町 田中屋
◇中仙町◇			
八幡神社 （栗沢）	俳句 〃	31×201	天保四歳 篠原通古 寛政二年 願主葛川村
菅原神社 （大神成）	菅公像 〃	93×164 51×92	極邦筆 大正十三年甲子旧八月八日
水神社 （豊川）	不明	75×180	西宮礼和筆
三嶋神社 （鶯野）	寿老人 不明 武者絵	37×60.5 37×60 94×138	竹村文海筆 嘉永二年旧四月長野村 秋山太良八寄進 平福德庵筆 安政五年四月吉日 五井直松 西宮礼和筆 明治三十四年乙卯秋応需
小沼神社 （小沼）	馬（2頭） 馬（1頭） 馬 馬（7頭） 馬（33頭） 馬（15頭） 馬（33頭） 馬（13頭） 馬 十二支（8枚）	24×35 35.5×43 49×28 68×89 27.5×182 21×131.5 35×124 明和二年申 安政六年己未 23×29	神代村津島岩之城 元文四己未□九月吉辰（漢字の馬を書き連ねた絵馬） 明和八年卯九月十五日 千葉氏 丁時宝曆十一天辛己十二月十七日敬白 奉掛神馬三拾三匹御宝 前 諸願成就 祈祈 天明八年申ノ四月八日願主小沼村喜助 奉納馬形拾五疋 御宝 前諸願成就皆令満足（裏）叶 寛政元歳酉卯八月小沼村 奉納 馬形三十三疋御宝前 諸願成 就皆令満足 敬白 明和二年申 安政六年己未（浮彫にした絵馬） （子、丑、卯、辰、未、申、戌、亥）

太田和夫

神社名	画題	寸法cm縦×横	画作者名・記載事項()内は筆者の記 裏…絵馬の裏面	
長野公民館	さかな	14×14.5	昭和二十八年旧四月 山形吉雄敬白	
	天狗	14.5×11		
	狐	10.5×16.5		
	猿と鶏	12.5×18	昭和二十二年亥年 山手ヤエ	
	ささら	12.5×18	奉納昭和二十八年旧四月八日 米田ツル敬白	
	鶏	11.5×14	大正拾二年四月八日	
	はす	20×9		
	松に鳩	17×9.5		
	とら	12×13.5		
	どじょう	12.5×17		
	うなぎ	23×9		
	剣龍	23×8		
	〃	21×8.5		
	太鼓	10.5×15		
	宝剣	18.5×6.5		
	鏡餅	15×14		
	◇太田町◇			
	稲荷神社 (門脇一男宅 氏神)	天狗	19×20	嘉永二年
		不明	25×29	奉納御宝前 敬白 石五郎 弘化二年乙巳七月十日
◇角館町◇				
神明社 (岩瀬)	祖父と孫	30×40	西野重吉敬白 明治卅三年旧四月四日	
	花下美人	67×71.5	明和三年六月二十一日 源直武筆羽陽 蘭慶堂	
	鶏に梅	37×51	平福文浪筆 嘉永五歳	
	武者	57×62	平福穂庵筆 応需文池	
	不明	57×74	西宮礼和筆 礼和藤正謹写	
	鶏	41×51	昭和四年	
	中国美人	63×53		
	吉祥天	63×53		
	静御前	45×59.5	平福穂庵筆 明治十八年歳次乙酉春三月 上澣 穂庵平福稲	
	バラに鶏	62×16.4	西宮礼和筆 明治二十一年旧戌子九月吉祥	
	公卿	52×63		
	道真像	34.5×46		
	恵比須図の軸を みる人物	49×66.5	(裏) 明治九年子五月吉日 小林茂与	
	岩に蘭	37×47	平福穂庵筆	
	二見ヶ浦	33.5×55	和道	
	お多福	32.5×50	平福穂庵筆	
	美人	46×62	辻九臯筆 明治庚子二月	
	不明	59×139	西宮礼和筆	
	富士山			
	鶏			
不明	46×51	恵洲		
不明	54×63	月庫		

秋田の絵馬について

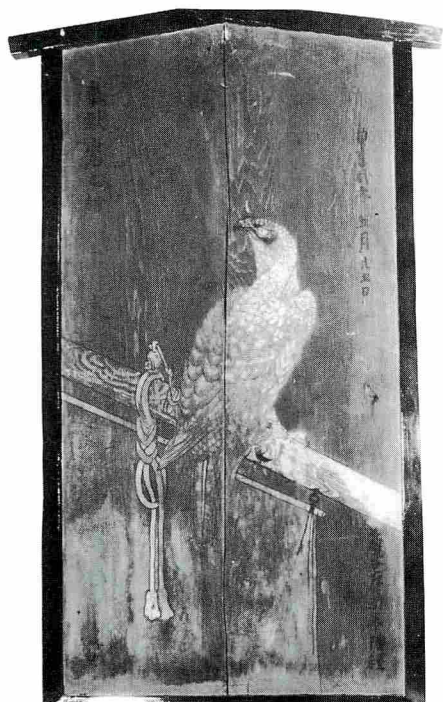
神社名	画題	寸法cm縦×横	画作者名・記載事項()内は筆者の記 裏…絵馬の裏面
神明社	田植	33×45	
	能	49×66	西宮礼和筆 礼和正毫 明治三十三年二月
	怪力童子	56×94	
	草子洗	130×206	平福文浪筆
	鶏と牡丹	100×200	僊嶺
	鶏	51×74	小野崎大凌筆 昭和十四年
眼地藏堂	眼(49個)	23.5×42	昭和九年旧六月二十四日 神代村小松字城廻り高橋アキ49歳
	〃(24個)		
	〃(10個)	12×15.5	
	〃(8個)	10.5×15.5	
	〃(6個)	12.5×14.5	(裏) 昭和二十七年旧四月八日 蒲生氏
	〃(4個)		
妙徳寺	日蓮上人		西宮礼和筆 明治二十八年
	釈迦如来		平福百穂筆 明治二十五年
足王山 (白岩)	腰下(男)		(ここには、男女の下半身、わらじを描いた小絵馬が多数奉納されている。)
	腰下(女)		
	腰下(男女)		
	わらじ		
愛宕神社 (白岩)	高砂	63×89	平福徳庵 □□免してもうれしや老の春 二流 沖鳴も遠くなりけり今朝の春 竹風 蓬萊の上に有りたし雪少し 松湯 願主當村久兵衛 文池写 (裏) 安政五歳午九月廿九日 当村高橋九兵衛 敬白奉納御宝前
	馬(52頭)	59×82.5	奉納万延元歳丙申四月
	繫馬	72.5×110	畷文久二歳戊春王吉旦相馬屋與吉部 高橋屋久兵衛 下茶園長五郎
	楠正成父子	91×111	西宮礼和筆 明治十二年己卯□秋応需礼和毫 願主高橋忠歳 久松岩吉 菅原源之助 菅原友吉 菅原亀吉 相馬峰吉 九月廿四年 寄進一金十錢菅原清松
神明社 (白岩)	神功皇后と武内宿彌	99×138	平福徳庵筆 明治十丁丑八月三日 平順画 当村若者中
	鶏	49×66	西宮礼和筆 明治三十五年七月二十日 山手滝治敬白
五社神社 (白岩)	虎退治	73×110	〃 明治十五壬午七月廿一日 山手滝治 山田斧吉
	楠正成公	97.5×170	平福徳庵筆 穂庵耘謹写 明治元戊辰 賊徒侵入 官軍吾輩 以此社為本營、八月念九日討之 仆賊將三十有八士 辻九臯筆 甲午季秋 九臯辻鶴謹写
西長野神社	武者絵	92×168	辻九臯筆 甲午季秋 九臯辻鶴謹写
	鶏に朝顔	90×112	
熊野神社 (西長野)	天孫降臨	70×95	西宮礼和筆
	算額	47×246.5	嘉永二年己酉七月廿五日 諸願成就也 伊藤惣太良門人
	算額	36×169.5	弘化三歳丙午八月十五日
◇西木村◇			
大国主神社	神馬	42×90	明和元甲申歳七月五日 石川□□
◇田沢湖町◇			
荒澤神社 (神代)	神馬	59×108	
	神馬	87×106	明治二十四年

太田和夫

神社名	画題	寸法cm縦×横	画作者名・記載事項()内は筆者の記 裏…絵馬の裏面
	馬(2頭)	21×25	明治二十五年
	神馬	65×102	大正八年十月十六日 本郷後村
	仁王	68×78	
	神馬	73×93	大正八年旧十月十六日 後村若者
	〃	82×97	奉納御宝前 明治二十四年卯四月十五日神代村佐々木松五郎
	馬上の兵士	62×102	明治三十二年十月二十日
	唐人物	86×47	文政六歳 七月十七日 当村富之助
大蔵山神社 (院内)	少女	56×76	震華筆 癸丑葉月
	跳躍する少年	48×65	和隣筆
	神馬	44.5×66	大正二年七月十日仙北郡神宮寺福島 富樫氏敬白
	馬(2頭)	38×66	昭和五年大平村山谷 嵯峨重兵衛
	花鳥	42×48	
金峯神社 (神代)	千疋絵馬	69×138.5	嘉永元歳戊申文月良辰亦 絵馬千疋御室前当処兵左衛門 (裏) 蓮池□叶
	千疋絵馬	120×140	奉納御宝前 安政二年卯四月吉日 高橋吉右衛門(裏) 諸願成就 叶 千鶴萬亀
	千疋絵馬	75×93	
	武者	64×98	西宮礼和筆 明治三十五年旧十一月 字森腰若者三名
	駆馬	72×98	九阜写乙未応囀 明治二十八年 旧七月吉辰当村高倉善治敬白
	あばれ馬	67×91	玉穂筆
	繫馬		平福文浪筆(裏) 奉掲絵馬一扁当村講中金峯山廣前 絵師角館町平福多治右衛門 大工当村高倉清蔵 吉政 元治二年乙丑四月二十五日世話方同邑高橋周蔵 清右衛門 清蔵 善蔵 周蔵 桑蔵 桑吉 重蔵 吉五郎 常五郎 専助 梅五郎 重助 福松 吉右衛門 市太郎 清蔵 林蔵 孫左エ門 嘉助 栄太郎 三蔵 □□□ 重助門 長左エ門 清四郎
	唐人物	65×102	駒峯筆 為藤井善蔵君
	繫馬	121×135	明治三年庚午五春吉祥 御宝前 願主当村九右衛門敬白 (裏) 諸願具足 如意円満家運長久子孫千憶
	神馬	69×106	西宮礼和筆 明治三十二年秋九月応需森腰若□□六名
	曳馬	59×88	梅園筆 明治三十六年旧三月拾日 森腰有志 為高倉善治君病氣全快
	牡丹	69×101	西宮礼和筆 明治三十三年季旧十月三日字森腰若者外式名
	大黒	98×110	明治二十二年旧七月二十日 当村高橋太一郎
愛宕山神社	美人十二ヶ月		明治三十四年(石版画)
	不明	45×60	西宮礼和筆



1「裸馬遊泳図」 能代市釣湯神社



2 白鷹 能代市上母体八幡神社



3 黒鷹



4 楠正成公 平福穂庵筆 角館町五社神社

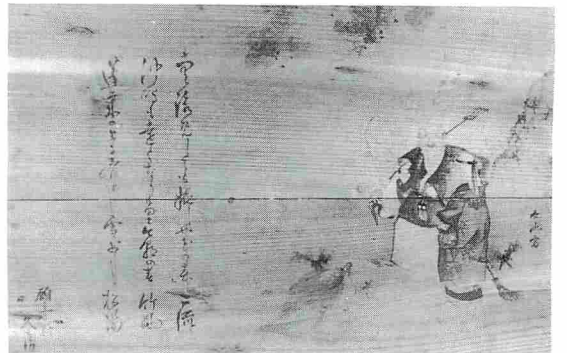


5 六歌山 竹村文梅筆 協和町唐松神社



6 神功皇后と武内宿彌 平福穂庵筆 角館町愛宕神社蔵

7 高砂 平福穂庵筆



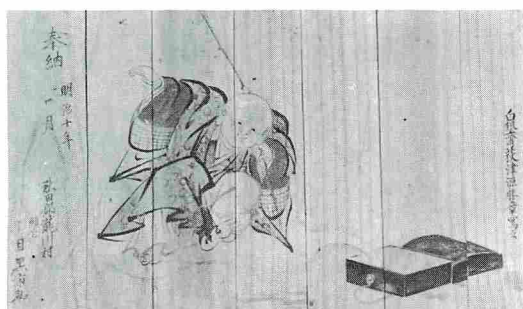
秋田の絵馬について



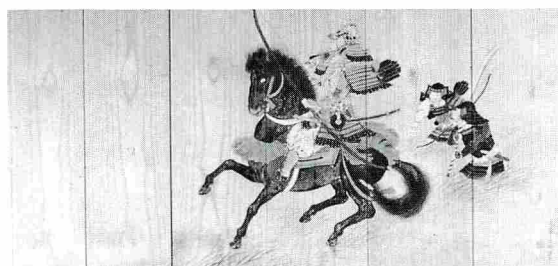
8 仁田四郎猪退治 竹村篁邨筆 秋田市豊平神社



9 楠公父子 西宮礼和筆 角館町愛宕神社



10 浦島太郎 荻津勝章筆



11 後三年の合戦 辻九皐筆 角館町五社神社



13 恵比須 倉田松涛筆
秋田市新屋日吉神社



12 川中島の戦い 豊嶋都山筆 能代市上母体八幡神社



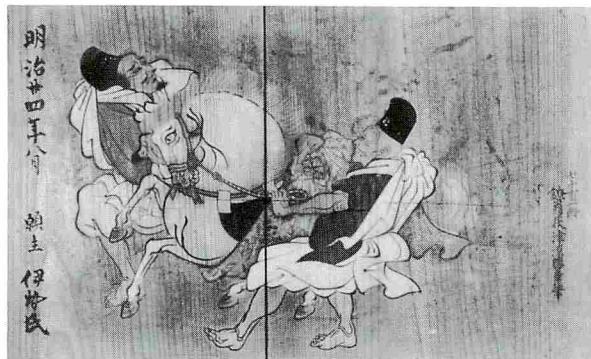
14 神功皇后と武内宿禰 小室怡々斎筆 秋田市太平山三吉神社



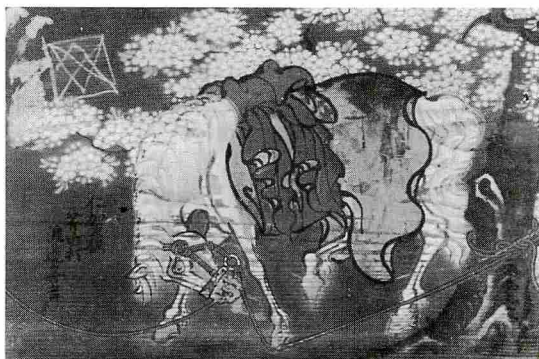
15 繫馬 平福文浪筆 田沢湖町金峯神社



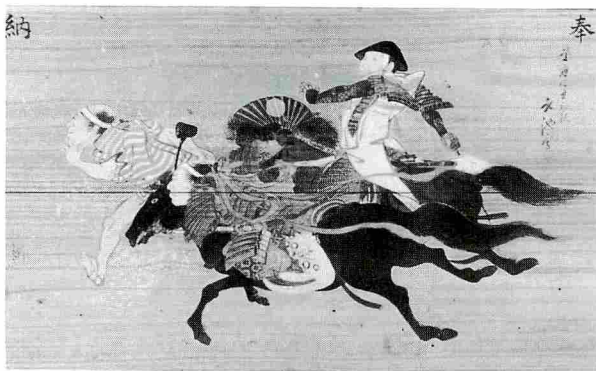
16 曳馬 小川歆斎筆 秋田市諏訪愛宕神社



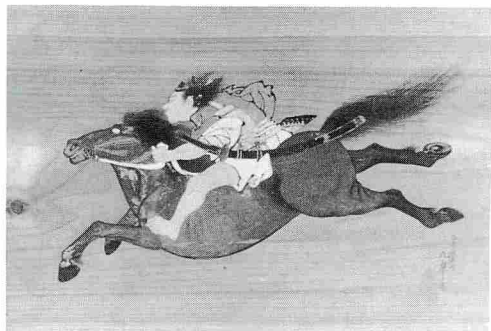
17 曳馬 荻津勝章筆 秋田市飯島稻荷神社



18 繫馬 一雲斎梅山筆 秋田市 志賀三郎氏



19 駆馬 平福穂庵筆 協和町唐松神社

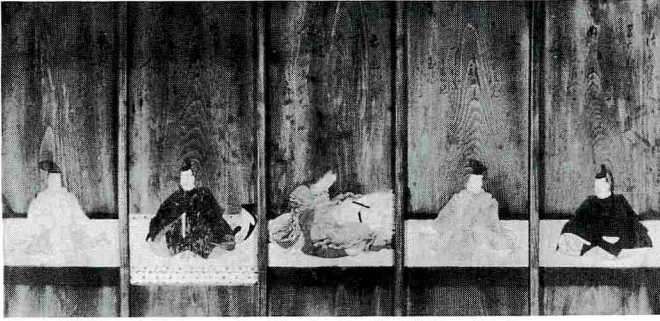


20 駆馬 辻丸皐筆 田沢湖町金峯神社



21 神馬 石川□□筆 西木村大國主神社

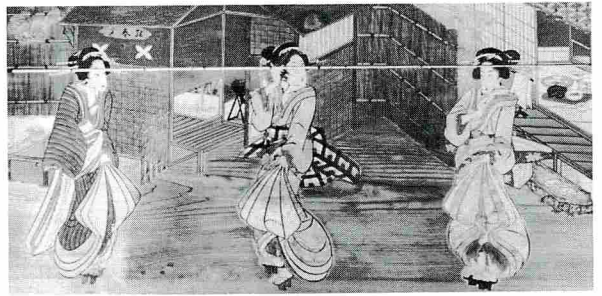
秋田の絵馬について



22 百人一首 鹿角市月山神社



23 松鶴 鹿角市芦名神社



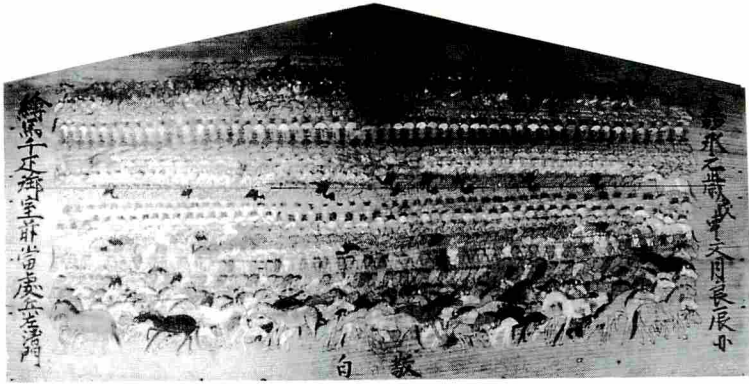
24 美人 鹿角市月山神社



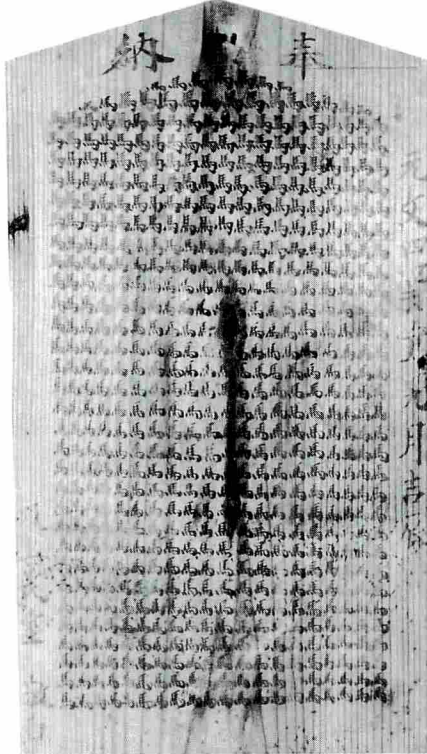
25 布袋 鹿角市月山神社



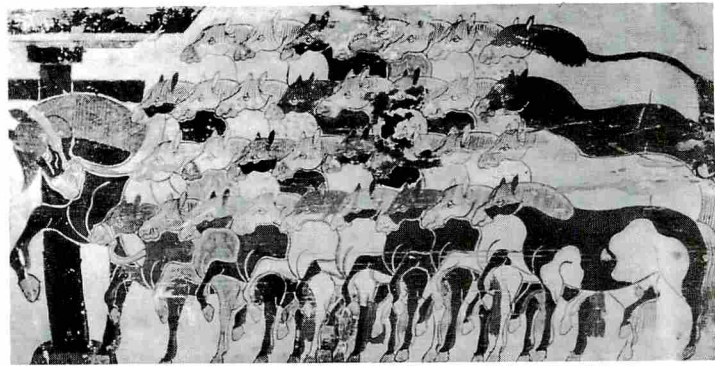
26 山姥金時 協和町荒川神社



27



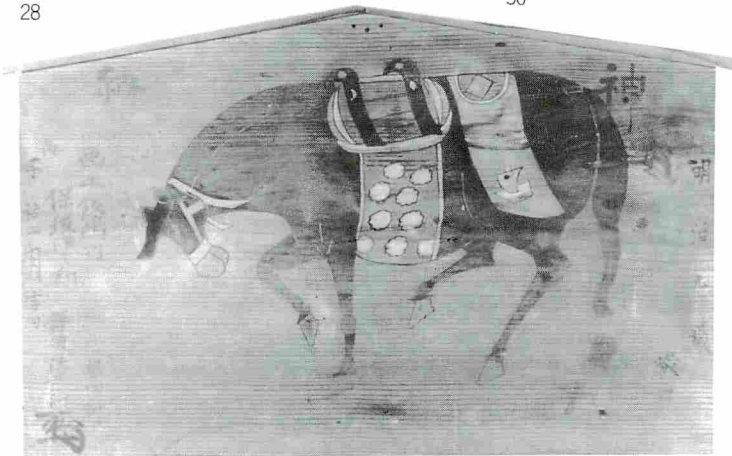
28



29



30



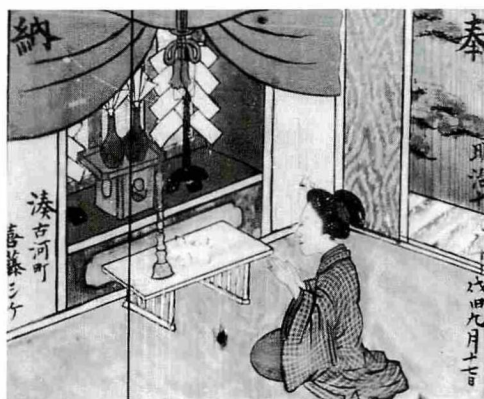
31

- 27 千疋絵馬 田沢湖町金峯神社
- 28 馬 中仙町小沼神社
- 29 馬 鹿角市芦名神社
- 30 馬喰 秋田市志賀三郎氏
- 31 神馬 //

32



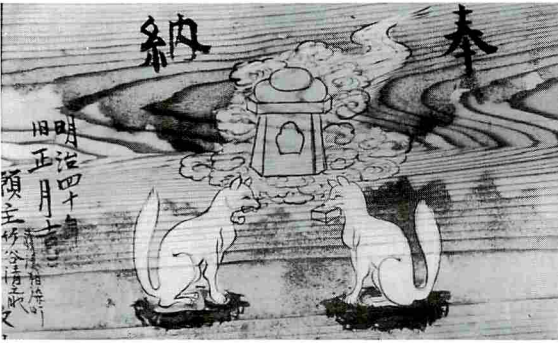
34



36



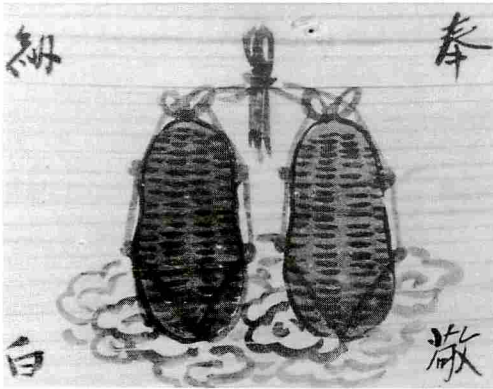
- 32 参詣 秋田市保戸野諏訪愛宕神社
- 33 礼拝 秋田市豊岩神明社
- 34 〃 〃
- 35 〃 秋田市豊岩八幡神社
- 36 〃 秋田市寺三吉神社遥拝殿
- 37 〃 秋田市豊岩神明社



38 向い狐 秋田市飯島稲荷神社



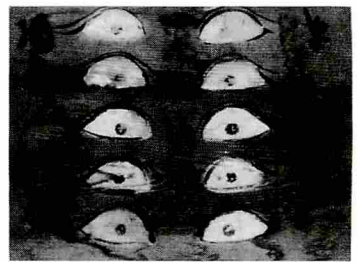
39 亀 秋田市 星野守之助氏



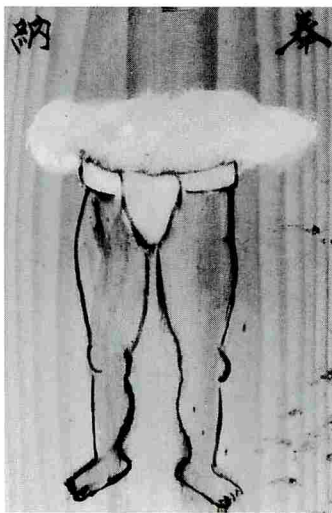
40 わらじ 角館町足王山



41 蛇 秋田市 星野守之助氏



42 眼 角館町眼地藏堂



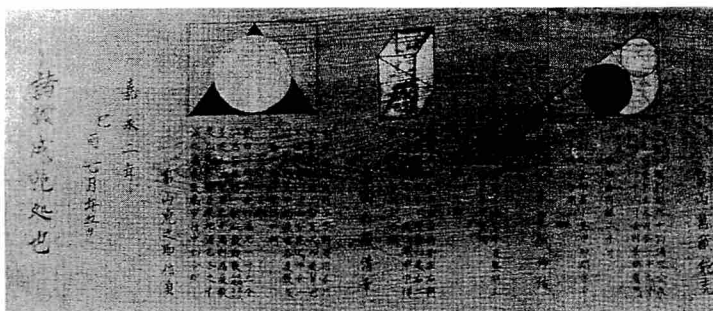
43 腰下 足王山



44 腰下 足王山



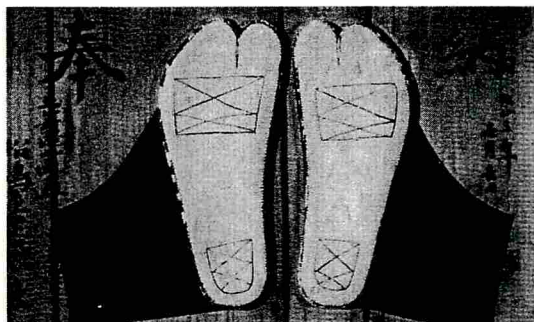
45 違い大根 秋田市 星野守之助



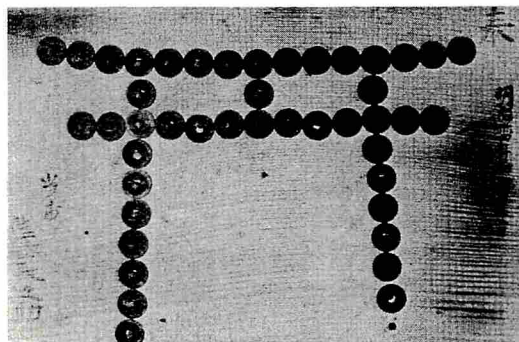
46 算額 角館町西長野熊野神社



47 漆絵馬 鹿角市芦名神社



48 足袋 秋田市三吉神社遙拝殿



49 鳥居 秋田市豊岩神明社



50 天狗 秋田市太平山三吉神社



51 かま 秋田市諏訪愛宕神社